

週刊野菜だより

No.840
07年7月5日 東北農民センター
ホームページ <http://www.suzuki31.com/>
FAX 020-4623-3153

神様も仏様も 信じない田んぼに

カミのご加護

よく「あした何が起きるかわからないから」と心配する人がいるけど、半分はわかってるんだよね。つまり、いつも何か起こるとすれば悪いことだと決めてかかっている。でしょ!?

今年5月の連休以降、すずき産地ではスタッフのトモちゃんが出勤せず、基本的には1人で一



周囲に網を張る代わりに、オト1を置いてみた。

連の田んぼ作業をこなしています。お知らせしたとおり突然、伊藤さんが養鶏からリタイアしてしまい、そちらの管理も重なるし、ますます仕事は追いつかなくなりました。

作付け予定の田んぼは20カ所(45まい)で総面積は370aほど。例年どおり完全無農薬で、田植えをするそばから雑草が発芽し、育ってしまいます。抑草機をくふうしてみたものの、じっさいに利用が追いつかず、その改良の時間がとれません。アイガモを放飼するにも、田の周囲に網や柵をめぐるすよゆうもありません。



やはり神も仏もありやしない。春には予想だにできなかった危機に立ちいたってしまいました。と、弱音を吐いてしまえばそれまでのことなんだけど...

ふと思いついて試してみたのが、左の写真。植えて一週間ほどの田んぼですが、真ん中においたカゴの中に、ア

イガモ(成鳥)を1羽入れて、外に2羽を放してみたのです。とくに田を網で囲ったりはしませんでした。

目論見どおり、放したアイガモたちは他へ行くことなく、仲間が囚われている? 田んぼで働いてくれるではありませんか。放す時期が早ければ、成鳥なら10aに2羽もいれば抑草には十分で、幼鳥でも10羽まではいりません。



一仕事を終え、もらわれてきたアイガモたち。

この方式を、これまでのところ8カ所、計160aほどの田で採用しています。失敗は一カ所だけで、カゴを

うちで孵化したヒナは、卵を抱えてきた成鶏をカゴに入れて、田んぼの真ん中に。やはり網なしで、うまくいってるみたい。

今週の野菜

完熟とまと	桐原勝治
たまねぎ	〃
にんじん	〃
おかひじき	鈴木サト
べんり菜またはニラ	〃
きゅうり(カブ)	〃
いんげん	飯塚早苗
だいこん	〃

不ぞろいのキュウリたち

キュウリは栽培面積が小さく、本数がそろわないのですが、鈴木サトさんに無理をさせました。もちろん無農薬です。露地栽培で、成りはじまったところで、曲がっていてもとてもおいしいと思います。

田の周囲の土手沿いに置いたところ、一夜にして野犬?に襲われてしまいました。それ以外は、後で報告

する天の助けともあいまって、そこそこ雑草対策はできているように見えます。

と、省力的にアイガモを利用できる見

通しが立ったところに、いわき市で有機農業に取り組んでいる仲間から電話が入りました。もう田んぼには雑草がなくなったので、働き終えたアイガモはいりませんか、と。さっそく成鳥・幼鳥あわせて20羽ほどをゆずってもらってきました。

ね、「世の中、なにが起こるかわからない」でしょ。座右の銘“行き当たりバッチリ”に確信を深めるきょうこのごろです。(つづく)